

Course number		U-LAS02 10003 LJ35					
Course title (and course title in English)		音楽芸術論 I Theory of Musical Art I			Instructor's name, job title, and department of affiliation		Part-time Lecturer, MAEKAWA HARUKA
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Arts, Literature and Linguistics(Foundations)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	Number of credits 2
Number of weekly time blocks		1	Class style		Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters 2025・First semester
Days and periods		Tue.2		Target year		All students	Eligible students For all majors
[Overview and purpose of the course]							
「ロシア、東ヨーロッパの音楽」というテーマで、ロシアを中心に、東ヨーロッパの音楽の特質について考える。 日本における西洋クラシック音楽といえば、ドイツ、オーストリア、あるいはイタリアの音楽のイメージが強いが、ロシアや東ヨーロッパの音楽も、独自の魅力を持ち、また、とりわけ20世紀の状況については、政治との関わりも研究的関心をひく。							
[Course objectives]							
音楽を思考の対象とする場合、ともすると言葉による説明や理論に専ら意識が向き、音楽そのものがおろそかになりがちである。この講義では、音楽の実感を持つことと音楽について考えることがつながった研究的思考ができることを目指す。							
[Course schedule and contents]							
1. ピョートル・チャイコフスキーの職業意識 宗教作品とバレエ音楽を中心として 2. チャイコフスキーの音楽 3. ミハイル・グリンカよりも前のロシアにおける音楽 4. グリンカの音楽の中のロシア的なもの 5. アントン・ルビンシテインとミリイ・バラキレフ、および、アレクサンドル・セロフとの対立 6. 強力な一団（ロシア五人組） 7. アレクサンドル・ダルゴムイジスキー以降のロシア・オペラ 8. モデスト・ムソルグスキーのオペラ 9. グリンカ論争から出発した、新しいロシア音楽の本質の探究 10. ミトロファン・ベリャーエフのサークル、その内と外 11. 民謡とナショナリズム 12. アレクサンドル・ボロディン、ニコライ・リムスキー＝コルサコフ 13. ロシア音楽におけるオリエンタリズム 14. ロシア音楽とリアリズム 15. フィードバック							
----- Continue to 音楽芸術論Ⅰ(2) ↓ ↓ ↓							

音楽芸術論Ⅰ(2)

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

期末レポートによる。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業内で実際に音楽を聴くことは時間的に限られているため、各自でできるだけそれを補うことが望ましい。また、講義で取り上げるのは一部の時代、地域であるので、小規模のもので構わないので音楽史の研究書をあらかじめ通読しておく、時代の流れや他国との関係がより良くわかる。

[Other information (office hours, etc.)]

[Essential courses]